

問題 1 「政府の失敗」に関する，以下の設問に答えよ（各 5 点，計 20 点）．

- (1) 政府の失敗が発生したというのは，どのような状況を指すのか．「パレート改善」という用語を使って，Besley と Coate による定義を簡潔に述べよ．
- (2) シカゴ学派は，政府の失敗は発生しないと考えてきた．具体的に，彼らの主張にしたえば，選挙を通じて政府の失敗はどのように解消されと考えられるか．「公約」という用語を使って，答えよ．
- (3) (2) で述べた，選挙を通じて政府の失敗が解消されるというシカゴ学派の考え方にはどのような限界があるか，明らかにせよ．
- (4) バージニア学派は，(3) で述べた以外の理由でも，有権者が選挙によって為政者をコントロールすることは難しいと主張してきた．「合理的無知」という用語に解説を与えながら，彼らの主張を説明せよ．
- (5) 「立憲財政主義」について，それがどのような考え方であり，日本の財政法と近年の予算政策に照らしたとき，どのような限界があるか，明らかにせよ．

問題 2 以下の文章を読んで設問に答えよ（各 5 点，計 30 点）．

ある社会では，構成員が 3 つの集団 $i = 1, 2, 3$ のどれか 1 つに所属しており，それぞれは政府に献金を供与して政策決定を自らに有利な方向へ誘導しようと，政治献金競争を繰り広げている．選択の対象となる政策は A と B の 2 つであり，各集団がそれぞれの政策から獲得する利益の金銭価値（単位：億円）は次の表で与えられている．

政策	集団 1	集団 2	集団 3
A	70	20	100
B	50	30	120

- (1) もし政府が社会的余剰を最大にするように政策を選ぶ存在であるとすれば，どちらの政策が選ばれるか答えよ．

政府は政策を選択するにあたり，各集団から受け取る献金の合計額にしか関心がない．一方，集団 i は，献金額 $c_i \geq 0$ を政府に提示し，自分にとって望ましい政策が実施されるなら c_i 億円を献金するが，そうでなければ献金しない戦略をとる．その結果， $c_1 \geq c_2 + c_3$ となって政策 A が実施

されたなら、たとえば集団 1 の利得は $70 - c_1$ 億円、 $c_1 \leq c_2 + c_3$ となって政策 B が実施されたならば利得は 50 億円である。各集団は他の集団が提示する献金関数および政府の意思決定を読み込んだ上で、最適な献金戦略をとる。

今、すべての集団が献金競争に参加できるものとしよう。集団 i が部分ゲーム完全なナッシュ均衡（以下、均衡と略称する）において提示する献金額を c_i^* と表記する。

(2) どちらの政策が実施されるにかかわらず、均衡においては、 $c_1^* = c_2^* + c_3^*$ が成立しなければならない。その理由を説明せよ。

(3) 均衡で実施される政策を答えよ。また、そのとき集団 1 と 2 が提示する献金額の組合せを、横軸に c_1 、縦軸に c_2 を測った平面上の範囲として、すべて図示せよ。

次に、集団 3 は政治的にうまく組織されておらず、献金競争に参加できないとしよう。このとき部分ゲーム完全なナッシュ均衡において集団 1 と 2 が提示する献金額をそれぞれ c_1^{**} 、 c_2^{**} とする。

(4) 均衡で実施される政策を答えよ。また、そのときに集団 1 が提示する献金額 c_1^{**} の範囲を求めよ。

(5) 上記 2 つのモデル分析から、一部の集団（たとえば企業や団体）の政治献金を禁止することの是非について、どのような結論を導き出すことができるか、明らかにせよ。

(6) 集団 3 のように、利害を共有する個人が集まっても政治的にうまく組織できない場合がある。なぜうまく組織できないのか、「公共財」および「フリーライダー」という用語を使って解答せよ。

問題3 以下の文章を読んで設問に答えよ（各5点，計25点）。

2期間のシグナリングモデルを用いて，政治的な予算循環が起きるメカニズムについて考察しよう．政治家には，現職，挑戦者にかかわらず，2つのタイプHとLがある．Hは利益集団と癒着しやすいタイプ，Lは癒着しにくいタイプである．有権者は外見からは政治家がどちらのタイプかを識別できない．何の情報もないとき，政治家がタイプLである確率を q とする（ $0 < q < 1$ ）．政治家が1期間政権をとったときの支配者レントはタイプにかかわらず1000万円，下野したときの利得はゼロである．一方，タイプHの政治家が歳出削減を1億円増やせば，追加的に100万円の政治的費用がかかるのに対して，タイプLの政治家の場合には，追加的に50万円の政治的費用がかかる． x はそのときの歳出削減額（億円）で，0か $\hat{x}$ のどちらかが選ばれる（ $\hat{x} > 0$ ）．有権者は，タイプLである確率の高い政治家を第2期の政権を任せたいと考えている．

ゲームのタイミングは，次の通りである．

- (i) Natureが第1期の現職のタイプ $t \in \{H, L\}$ をランダムに選ぶ．
- (ii) 自分のタイプを知る現職が，第1期の歳出削減 $x \in \{\hat{x}, 0\}$ を選択する．
- (iii) 選挙が始まる．Natureが挑戦者のタイプ $t \in \{H, L\}$ をランダムに選ぶ．
- (iv) 有権者が第1期の歳出削減額を観察した後，現職を支持するか，挑戦者を支持するかを決める．無差別なときは，確率0.5で現職が再選される．
- (v) 選挙の勝者が第2期の政権をとり，第1期と同じ支配者レントを手に入れる．

なお，政治家の割引因子は1であるとする．

- (1) タイプLだけが再選される分離均衡が実現するための必要十分条件として， $\hat{x}$ の満たすべき範囲，および一括均衡が実現するための必要十分条件として， $\hat{x}$ が満たすべき範囲をそれぞれ求めよ．

第1期の歳出削減1億円あたりで有権者の享受する利得を v 万円，一括均衡での歳出削減額を $\hat{x}_p$ 億円，分離均衡での歳出削減額を $\hat{x}_s$ 億円，第2期にタイプ t の政治家が政権をとったときに有権者が享受する利得を V_t 万円（ただし， $V_L > V_H$ ）とする．また，有権者の持つ割引因子は政治家と同じく1である．

- (2) 分離均衡が実現すると予想されるときの有権者の期待利得 Π_s ，および一括均衡が実現すると予想されるときの有権者の期待利得 Π_p をそれぞれ数式で表せ．

選挙の役割には、現職に歳出削減を実行するインセンティブを与える「動機付け」と、有権者に現職のタイプを見分けさせる「選抜」の2つがあると考えられる。

- (3) 一括均衡を比較したとき、分離均衡のもとで有権者は、「動機づけ」によってどれだけの期待利得の増分を享受するか、明らかにせよ。
- (4) 一括均衡と比較したとき、分離均衡のもとで有権者は、「選抜」によってどれだけの期待利得の増分を享受するか、明らかにせよ。
- (5) 「事前確率 q が大きければ大きいほど、有権者にとっては分離均衡が実現する方が望ましい。」この主張を正しいと考えるならば○、間違っていると考えるならば×、どちらともいえないと考えるならば△を記入した上で、その理由を説明せよ（ヒント：横軸に q ，縦軸に $\Pi_s - \Pi_p$ を測った図の上で、 q を 0 から 1 まで動かしたとき、 $\Pi_s - \Pi_p$ がどのようなグラフを描くか考えればよい）。